

# Z世代で潮来市活性化策

## 潮来高・筑波大・麗沢大が連携

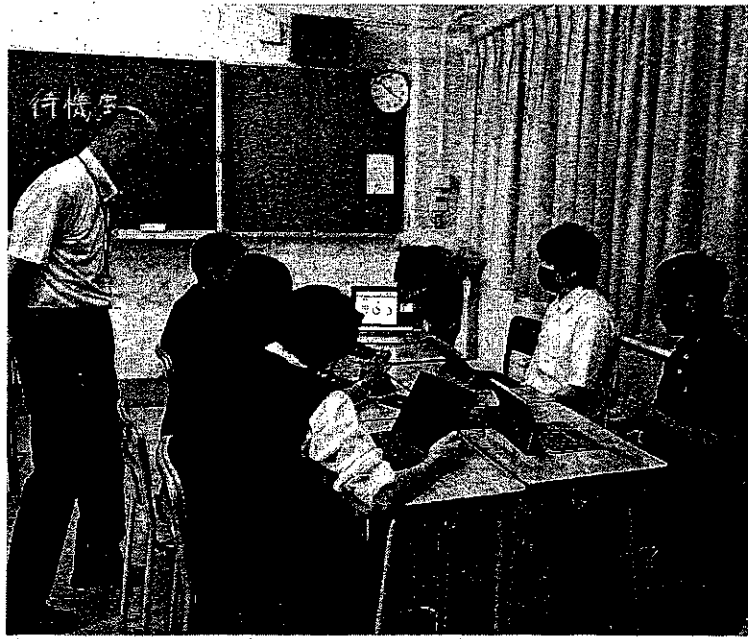
10、11月発表

潮来市須賀の県立潮来高(高野光章校長)で、高校生と大学生が同市の活性化策などを考える本年度の「高大連携事業」がスタートした。2020年から同市と筑波大が連携して毎年実施しており、24年から麗沢大が加わった。今年は9月に市内でワークショップを行い、10月末の潮来高文化祭と、麗沢大・筑波大で11月にそれぞれ開催するシンポジウムで研究成果を発表する予定だ。

初回となる7月16日は、生とオンラインで交流。全体テーマを「Z世代が考える潮来のまちづくり」とし、各班ごとに研究テーマを①

他地域と協力したまちづくり②豊かな自然を守るために③特産品で潮来を盛り上げよう④潮来高校生のためのモビリティとは⑤デジタルでつなぐ潮来の文化とした。

都市やまちに関するデータを可視化できるサイト「REASAS(リーサス)」を用いながら同市への転入・転出の傾向や市内の人口集中地域などを調べるとともに、同市の魅力や課題を書き込んだ付箋をグループ化して整理する「KJ法」で市の現状について理解を深めた。



パソコンの画面に映った大学生とオンラインで交流する地域ビジネス科2年の生徒たち  
県立潮来高

生徒たちは、夏休み中に同市の魅力と課題を各自五つずつ考え、その上で9月3～5日に開くワークショップに臨む。ワークショップでは、各テーマに沿って高校生と大学生が一緒に市への提案や提言を考える。モビリティ(移動手段)について研究を行う4班の班長を務める大川翔愛さんは、同市の課題として「市内を走る路線バスと午後2時以降の電車の本数を増やしてほしい。魅力は、自転車で高校に登下校しているが自然が豊富で、とても癒やされる」と話した。(小室雅一)

2025. 7. 30(茨城新聞17面)